

令和5年度 特色ある教育実践研究校（平和教育）報告書

己斐中学校

1 学校の課題

令和4年度に本校2学年で実施した平和学習意識調査では、「ヒロシマが世界に伝えるべき平和について国内外の人々に語るができることは、どのくらい大切か」という項目に対して、肯定的回答は80%を超えている一方で、「ヒロシマが世界に伝えるべき平和を語ってみたいか（語るができるか）」についての肯定的回答は60%前半であった。また、「広島が世界に伝えるべき平和」について、大切だと考えている生徒が多い一方で、それを語るができる生徒はさほど多くない。

その原因として以下の3点が問題として考えられる。

1点目は、「自分たちが何をすれば（伝えれば）良いのか」という自分自身の思いや考えを自分事としてとらえることができていない、またはそこまでの考えに至らないこと。

2点目は、「誰に対して、何を、どのように語るのか」が明確になっておらず、またそのような場面が設定されないまま平和学習を実施してきたこと。

3点目は、広島の中学生にとっての平和学習は、「原子爆弾」や「平和記念公園」といったことに偏っている傾向があり、戦争を経験していない自分たちが何を語るができるのか、考えることが難しいこと。

これまでの本校の取組では、自分たちの意見や考えを英語で発信するなど、平和教育と英語教育を結び付けながら実施することで、「平和な世界の実現」の重要性について多くの生徒が理解している一方で、「平和な世界の実現」のために、誰に何をどのように発信するのが明確になっていなかったり、生徒が発信したいと思えるようなテーマ設定や調査活動が十分に実施できていなかったりした。その結果、生徒の主体性が十分に反映されていないことが分かった。

そこで、本年度の研究を進める上で本校の課題を以下4つ挙げる。

- ① 平和について発信するために、様々な事象を自分事として捉えていく場面を設定する。
- ② 誰に何をどのように伝えていくべきなのかを明確にする。
- ③ 平和に対する考えや思いを受け入れ、自分の考えを取り入れていく機会を設定する。
- ④ 平和について主体的に発信するために、生徒が自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する活動を設定する。

2 研究主題

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」を語れる生徒の育成 ～校内の文化的平和を通して～

【主題設定理由】

令和4年度は平和教育プログラム改訂に伴い、平和教育プログラムと本校の平和教育との関連する内容を中心にヒロシマの思いを海外の人々に伝えるための効果的な方法を模索した。

今年度は、平和な世界実現の手段に対する考え方のちがいを乗り越えて、ヒロシマの思いを伝えるために、これまでの取組を継続・発展させて、ヒロシマが世界に伝えるべき平和を語れる生徒の育成を目指す。

具体的には、1・2学年では校外学習を中心にヒロシマが世界に伝えるべき平和とは何なのかを考え発信し、3学年ではこれまでの学習を踏まえて、英語で平和を語れる人材の育成を目指す。

3 取組内容

(1) 「平和教育プログラム」を教育課程として位置づけ、本校3年間の平和教育カリキュラムをデザイン

- 「総合的な学習の時間」における平和教育と「平和教育プログラム」を関連付けた本校独自の平和教育の計画・実施。
- 8月6日の平和登校日は、全校生徒で広島国際会議場フェニックスホールに行き、「ひろしま子ども平和の集い」に参加。全国から集まった同世代の学生による平和メッセージや取組を聞くことで、平和意識の向上を図る。
- 「平和教育プログラム」における「発信する」場面の工夫。



(2) フィールドワークやアンケート調査などによる情報収集やデータの分析を行い、まとめ・発信する活動を各学年で実施（ひろしま平和ノート 各学年の学習3との関連）

- 1学年：江田島術科学校見学やNHK広島、マツダスタジアムを路面電車で巡り、平和新聞によるまとめ・発信。
- 2学年：平和公園慰霊碑巡りや被爆体験伝承講話、生徒が自ら設定したテーマに基づく調査活動の結果をまとめ、1学年生徒や地域住民、保護者を招待したポスターセッション会で発信。
また、振り返りの充実のために、聴衆へ発表に対する感想などについてのアンケートを依頼。
- 3学年：これまでの平和学習（1年次：平和公園慰霊碑巡り、2年次：平和公園フィールドワーク、文化的平和のために自分ができることをポスターにまとめる活動）を活かして、「文化的平和」をテーマに留学生との意見交流会を実施し、相手意識を持ち、自分の考えや思いを発信。

1学年の様子



2学年の様子



3学年の様子



(3) 「文化的平和」の構築に向けた取組

(平和構築に必要な資質・能力の育成を目指して)

- 生徒会執行部が中心となって、「文化的平和」をテーマに「3KGs」を設定（右図）し、道徳の授業で各クラスのいじめ防止宣言を作成し、校内の文化的平和の振興を図った。
- 生徒会執行部が中心となって、校内で募金活動を行い、集めたお金で、カイロや靴下など必要な物品を購入し、関係機関を通じてウクライナの中高生に送った。



(4) 外国語科でウクライナの学生に向けてメッセージを作成

- 全学年の外国語科の授業で、英語とウクライナ語の2つの言語を使い、ウクライナの学生に向けて平和メッセージを作成し、関係機関を通じて発信した。



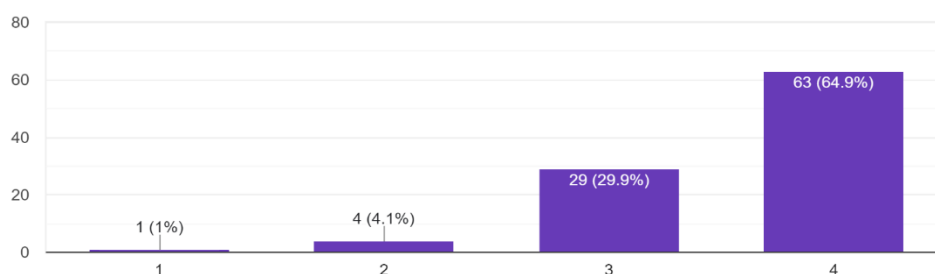
4 検証結果

平和教育プログラムおよび総合的な学習の時間（平和教育）に関する2学年生徒対象の事前（4月）・中間（9月）・事後（1月）の意識調査の結果は以下の通りである。

（ 1：当てはまらない 2：あまり当てはまらない 3：だいたい当てはまる 4：とても当てはまる ）

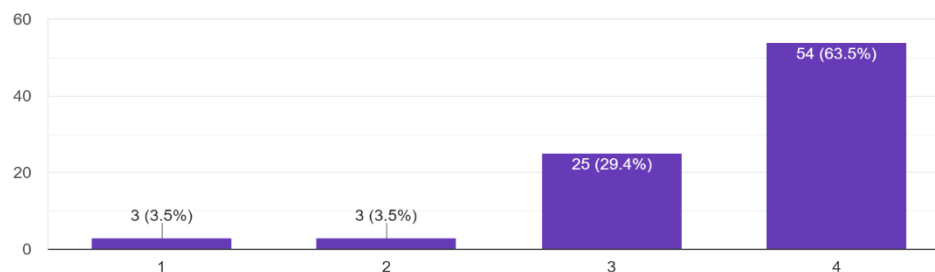
○ 事前（4月） 肯定的回答 94.8%

広島に投下された原爆や戦争に関する歴史について学ぶことは大切だと思う
97件の回答



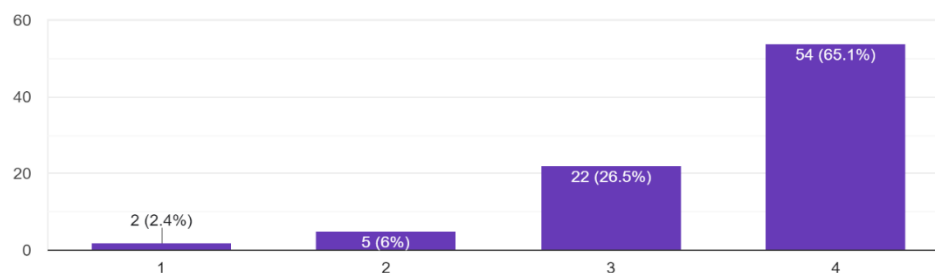
○ 中間（9月） 肯定的回答 92.9%

広島に投下された原爆や戦争に関する歴史について学ぶことは大切だと思う
85件の回答



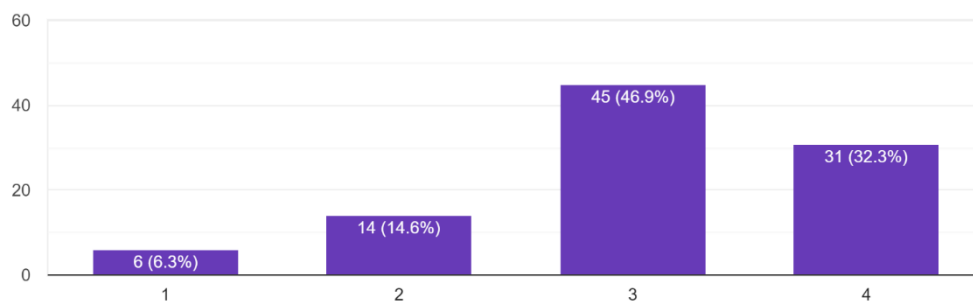
○ 事後（1月） 肯定的回答 91.6%

広島に投下された原爆や戦争に関する歴史について学ぶことは大切だと思う
83件の回答



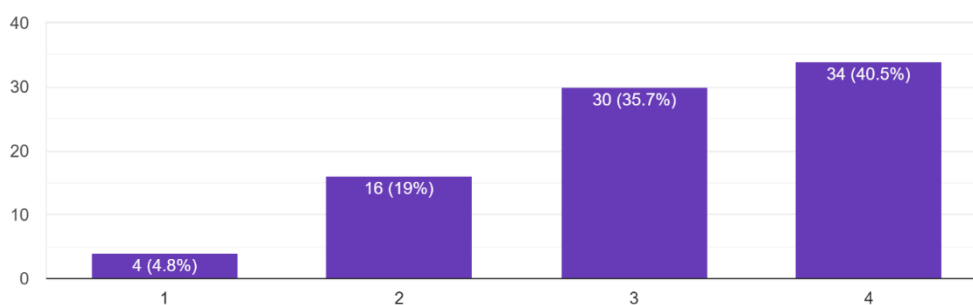
○ 事前（4月） 肯定的回答 79.2%

広島に投下された原爆や戦争に関する歴史について学びたいと思う
96件の回答



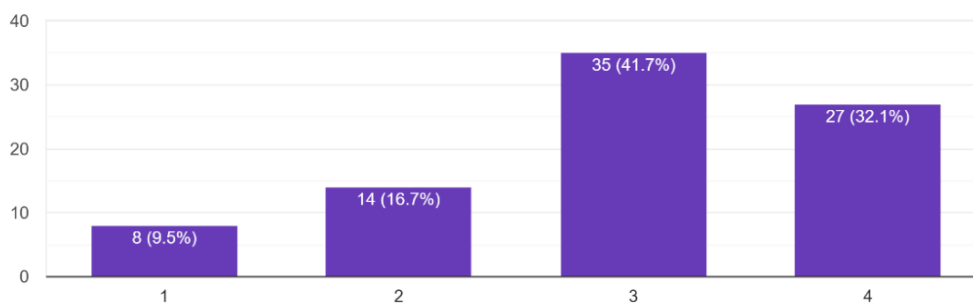
○ 中間（9月） 肯定的回答 76.2%

広島に投下された原爆や戦争に関する歴史について学びたいと思う
84件の回答



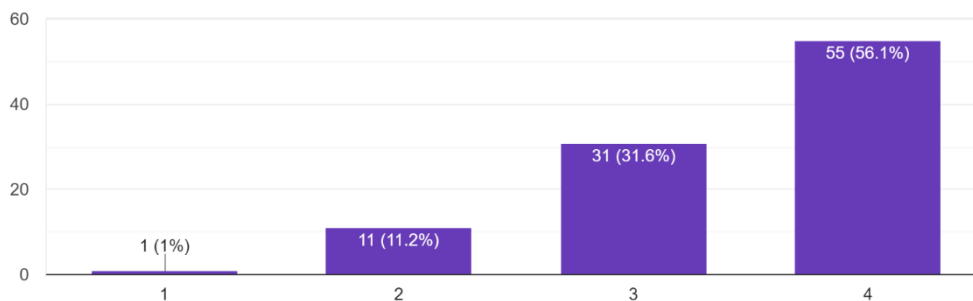
○ 事後（1月） 肯定的回答 73.8%

広島に投下された原爆や戦争に関する歴史について学びたいと思う
84件の回答



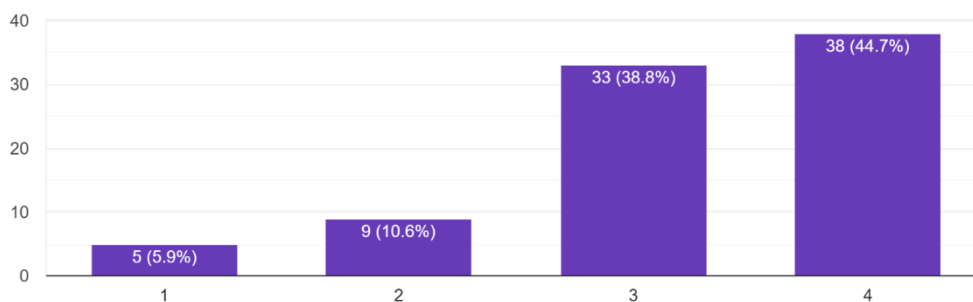
○ 事前（4月） 肯定的回答 87.7%

平和への思いや被爆した方々の願いをつないでいきたいと思う
98件の回答



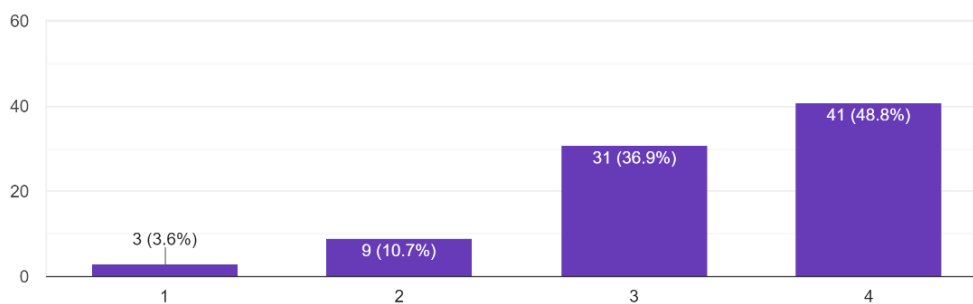
○ 中間（9月） 肯定的回答 83.5%

平和への思いや被爆した方々の願いをつないでいきたいと思う
85件の回答



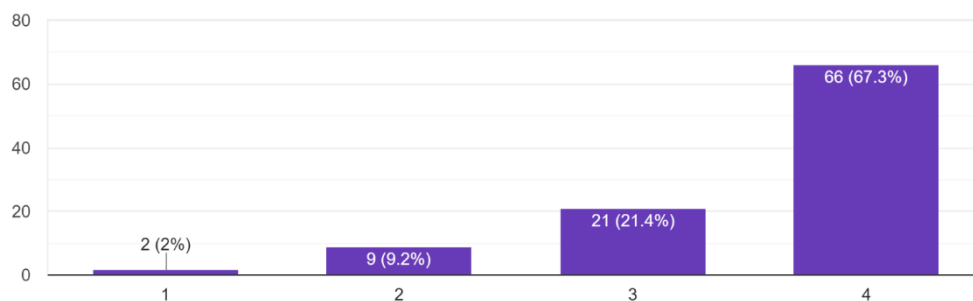
○ 事後（1月） 肯定的回答 85.7%

平和への思いや被爆した方々の願いをつないでいきたいと思う
84件の回答



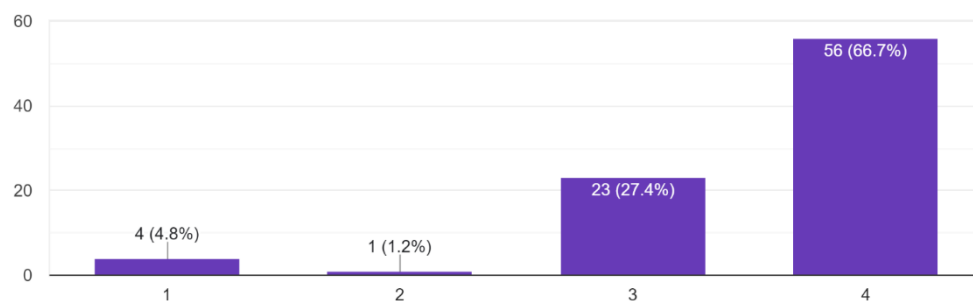
○ 事前（4月） 肯定的回答 88.7%

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語ることは大切だと思う
98件の回答



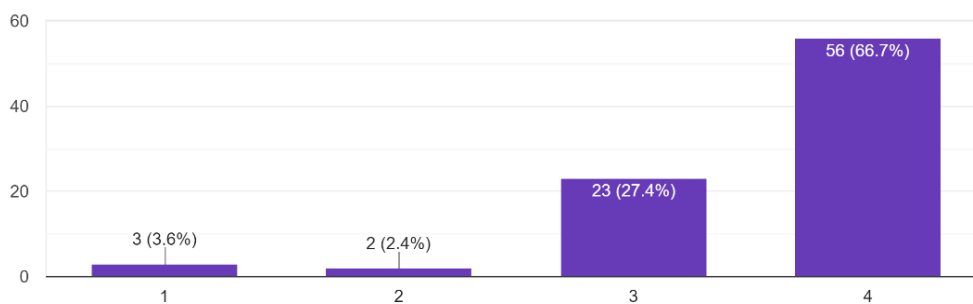
○ 中間（9月） 肯定的回答 94.1%

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語ることは大切だと思う
84件の回答



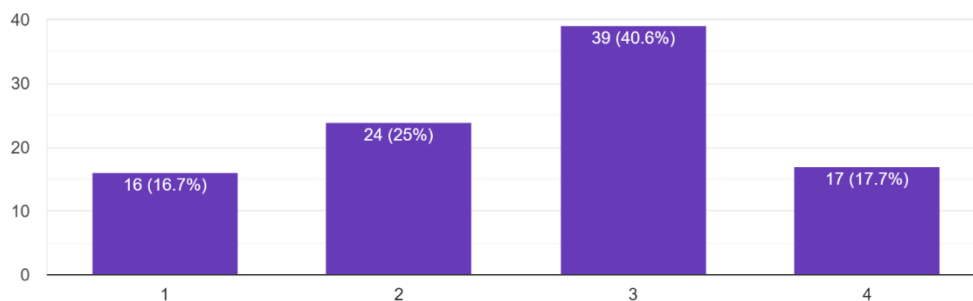
○ 事後（1月） 肯定的回答 94.1%

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語ることは大切だと思う
84件の回答



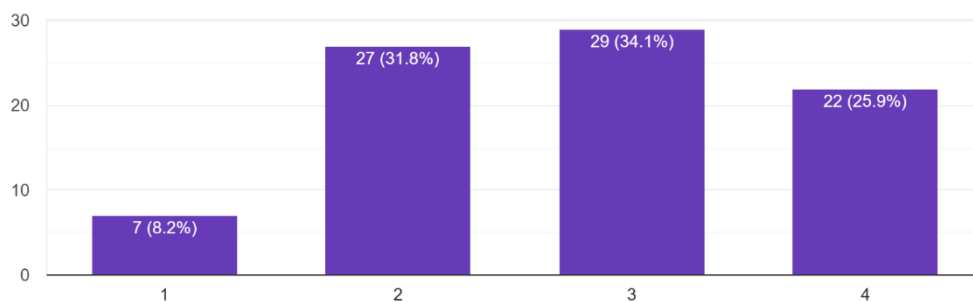
○ 事前（4月） 肯定的回答 58.3%

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語る事ができる
96件の回答



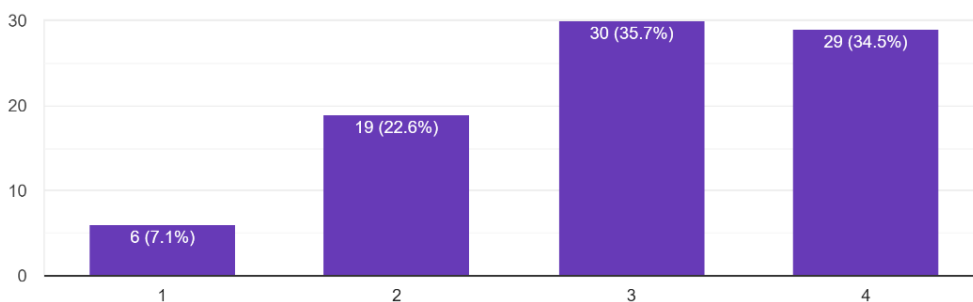
○ 中間（9月） 肯定的回答 60%

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語る事ができる
85件の回答



○ 事後（1月） 肯定的回答 70.2%

「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語る事ができる
84件の回答



5 研究成果

(1) 成果（3 取組内容との関連）

生徒一人ひとりが「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」を語りたいと思うことができるように、平和という大きなテーマのもと、様々な取組を行った成果として主に以下の3点が挙げられる。

- ・ 「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について語るができる生徒の割合が増加した。
ポスターセッション会などの発信する場の設定や、発信当日に向けてそれぞれの課題について多くの時間を費やして、調査活動や整理・分析したことで、「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」についての概念が形成される など、生徒一人ひとりが主体的に平和について考え、解決への意欲を高めながら探究してきた結果であると考えられる。
- ・ 他者の平和に対する考えや思い受け入れ、自分の考えを「どのように伝えていくべきなのか」について考えることができた。
校内や平和公園周辺での調査活動を通して、平和に対してさまざまな思いがあることに気づき、発信する相手を意識してポスターセッション会に取り組み、聞き手の理解を深めるために表現方法を工夫する活動を設定した結果であると考えられる。
- ・ 校内における文化的な平和構築の土台を築くことができた。
自分たちが学習したことを基に、平和な世の中を実現するために必要な考え方や行動を喚起するポスターを製作し、多くの生徒の目に触れる場所に掲示した結果であると考えられる。

(2) 課題

本年度の取組に対する主な課題は以下3点である。

- ・ 生徒の活動の様子やポスターづくりなどの表出している活動に反して、アンケート調査の結果が著しく変化しておらず、意識調査の方法や質問項目の見直し・修正が必要である。
- ・ ポスターセッション会では、発表に向けた練習をしていく過程で、聞き手の興味を引くことへ生徒の意識が逸れたこと。発表のねらいを明確にし、生徒と随時共有していく必要がある。
- ・ 各学年における発信する対象は明確であり、相手を意識しながら発信することはできたが、発信する対象についての理解不足などにより、深い学びには繋がらなかったため、何をどのように伝えるかを検討する必要がある。

(3) 来年度に向けて

生徒の主体的な学習を促すような平和教育を目指す。具体的には、本年度と同様に総合的な学習の時間を軸にした探究的な活動を計画し、生徒が自ら問いを見付け、その問いに向かって適切な調査方法を模索し、解決に取り組み、明らかになった考えや意見などをまとめ・表現していく必要がある。また、一方的な発信とならないように、相手意識に重きを置き、表現の方法を工夫できるようにする。検討中ではあるが、来年度に向けた具体的な取組を以下3つ挙げる。

- ・ 文化的な平和の構築に向けた活動をより発展的な取組にしていく。具体的には、探究活動と結び付けるために、3年間を見通した系統的な平和教育カリキュラムをデザインし、本校の平和教育の基盤を形成する。
- ・ 日常生活や学校行事などについての振り返りを活用し、ポートフォリオ形式で生徒の平和に関する思いや考えなどについて視覚化を図ることで、その変容を生徒自身が把握しやすいようにする。
- ・ 検証方法を再検討し、アンケート項目の修正や実施時期の改善等を図る。